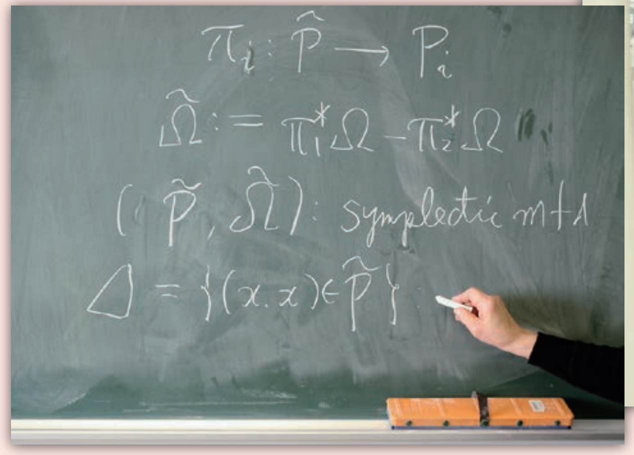
東北大学大学院理学研究科・理学部概要



TOHOKU
UNIVERSITY

GRADUATE SCHOOL OF SCIENCE
FACULTY OF SCIENCE

平成26年4月

目　　次

概　　要 …… 1
沿　　革 …… 2
歴代学部長（研究科長） …… 6
歴代事務長（事務部長） …… 7
機　　構 …… 8
1　大学院 …… 8
2　学　部 …… 9
3　事務部 …… 9
4　専攻及び講座 …… 10
5　学科及び学科目 …… 11
6　附属施設 …… 12
職 員 数 …… 12
学　　生 …… 13
1　学生定員及び現員 …… 13
(1)　大学院学生 …… 13
(2)　学部学生 …… 14
(3)　研究生及び科目等履修生 …… 15
2　平成 26 年度入学者選抜状況 …… 15
(1)　大学院学生 …… 15
(2)　学部学生 …… 15
3　修了者及び卒業者 …… 16
(1)　大学院修了者 …… 16
(2)　学部卒業者 …… 16
4　論文提出による博士の学位授与者 …… 17
(1)　学位令に基づくもの …… 17
(2)　学位規則に基づくもの …… 17
5　平成 25 年度修了者及び卒業者進路状況 …… 18
(1)　大学院修了者 …… 18
(2)　学部卒業者 …… 18
6　連携大学院方式 …… 18
7　外国人留学生数 …… 19

科学研究費等 …… 20
1　平成 25 年度科学研究費補助金採択状況 …… 20
学　術　交　流 …… 21
1　研究員等受入れ状況 …… 21
2　外国人研究員等受入れ状況 …… 21
3　部局間学術交流協定校 …… 21
予　　　　算 …… 22
1　平成 25 年度予算額 …… 22
機　械・器　具 …… 22
標　　本　　等 …… 22
1　標　本 …… 22
2　実験生物系統保存 …… 22
学術研究発表誌 …… 22
土　地　・　建　物 …… 23
施　設　所　在　図 …… 28
理学研究科・理学部青葉山地区配置図 …… 29

概　　　　要

明治 40 年（1907 年）6 月 22 日に東北帝国大学の創立と共に、その分科大学とし理科大学が仙台に、農科大学が札幌に設定された。理学部は、この理科大学に端を発し、本学で最も長い伝統を持つ学部である。

明治 44 年（1911 年）、当時の内務大臣原敬の財政顧問であった古河虎之助並びに宮城県等からの寄付を基礎にして、片平地区に理科大学の建物群が竣工した。同年 9 月、先ず数学・物理学・化学の 3 学科が海外留学から帰朝した初代教授陣をもって発足し、次いで翌 45 年（1912 年）には地質学科が発足した。

大正 8 年（1919 年）理科大学は理学部となり、その後、大正 11 年（1921 年）の生物学科開設をはじめ学科、講座等も次第に拡充され、東京、京都と並ぶ日本の理学教育・研究の拠点として発展を重ねた。昭和 20 年（1945 年）7 月 10 日第 2 次世界大戦末の仙台大空襲によって建物の大部分が焼失するなど大きな被害を受けたが、戦後の学制改革により、昭和 24 年（1949 年）新制東北大学の理学部として再発足し、昭和 36 年（1961 年）までには建物も復興されて戦災の痛手から立ち直り、新しい発展の時代を迎えた。

昭和 28 年（1953 年）3 月に大学院理学研究科が設置され、数学、物理学、化学、地学、生物学及び地球物理学の 6 専攻が発足したが、昭和 32 年（1957 年）4 月に原子核理学専攻、昭和 33 年（1958 年）4 月に天文学専攻が設置された。更に昭和 37 年（1962 年）4 月及び昭和 39 年（1964 年）4 月に化学第二学科及び物理学第二学科がそれぞれ増設されたことに伴い、昭和 41 年（1966 年）4 月に化学第二専攻及び昭和 43年（1968 年）4 月に物理学第二専攻が設置され、理学部・理学研究科の教育研究活動は質・量ともに大幅に拡充された。

昭和 44 年（1969 年）から同 54 年（1979 年）にかけて片平地区からの移転整備が推進され、青葉山地区に緑豊かなキャンパスが完成した。更に、平成 8 年（1996 年）から開始された物理研究実験棟の落成により、大きく姿を変えはじめている。当地は西に蔵王連峰を、東に仙台市街をはさんで遠く太平洋を望む高爽の地であり、研究と勉学にふさわしい環境に恵まれている。

平成 6 年～同 7 年（1994 年～1995 年）には、大学院理学研究科の重点化整備が行われ、それに伴い専攻の再編、大学院の大講座化、学部の大学科目化等が進められるとともに、大学院の学生定員が大幅に増員され、従来の理学部 1 部局から理学研究科及び理学部の 2 部局制となった。

現在 7 学科、7 学科目、6 附属教育・研究施設（1 学部内施設を含む。）、 大学院理学研究科 6 専攻 28 講座（大講座）と学部収容定員 1,296 人、大学院収容定員博士前期課程 524 人、博士課程後期課程 390 人、教職員 348 人を擁し、我が国の理学部中最大級の規模を有している。

本研究科・学部は、創立以来我が国における理学の教育・研究の一大中心として、18,599 人の学士、9,267 人の修士及び 2,847 人の博士など多くの人材を世に送り、すぐれた研究業績を挙げ社会に貢献してきた。特に、研究尊重の精神は創立以来今日に至るまで絶えることなく受け継がれている。世界のトップレベルにある研究者達が、純理論的研究から様々な新しいアイデアによる実験的研究に至るまで活発な研究活動を展開しており、これら先端研究は極めて多彩である。

一方、大正 2 年（1913 年）に我が国で初めて女子学生の入学を許可するなど、広く内外に門戸を開き、教育・研究を通じて国内及び国際交流も極めて盛んである。多くの教職員・学生の海外への派遣及び外国人留学生、外国人研究者の受入れあるいは国際共同研究の実施や国際学会の主催等が日常的に行われており、理学研究科・理学部の教育・研究内容は国際的にも高い評価を受けている。

沿　　　革

明 40. 6	勅令第 236 号により仙台の理科大学及び札幌の農科大学の 2 分科大学をもって東北帝国大学として創立
〃 43. 12	省令第 35 号により、明治 44 年 1 月 1 日理科大学開設公示
〃 44. 4	省令第 12 号により、数学、物理学、化学及び地質学の 4 学科を置く。前 3 学科は同年 9 月 11 日開講
〃 44. 4	初代理科大学長小川正孝（化学）就任
〃 45. 8	向山に附属観測所設置
〃 45. 9	省令第 10 号により地質学科開講
大 4. 8	臨時理化学研究所設置
〃 6. 9	省令第 10 号により応用化学科設置
〃 8. 4	勅令第 13 号により理科大学は理学部となる。
〃 8. 6	2 代学部長林　鶴一（数学）就任、工学部設立とともに応用化学科は工学部に所属換となる。
〃 9. 9	勅令第 395 号により地球物理学講座及び鉄鋼学講座設置
〃 11. 8	省令第 26 号により生物学科設置
〃 11. 12	臨時理化学研究所廃止
〃 12. 4	文部省告示第 263 号により第九臨時教員養成所が東北大学に附設、数学科、物理化学科を置く。
〃 12. 6	3 代学部長日下部四郎太（物理）就任
〃 13. 7	勅令第 157 号により青森市浅虫に附属臨海実験所設置 4 代学部長に藤原松三郎（数学）就任
〃 13. 8	地質学科が地質学古生物学（現在の地圏環境科学科）及び岩石鉱床学（現在の地球惑星物質科学科）の 2 学科に分離
〃 15. 7	5 代学部長に真島利行（化学）就任
昭 3. 7	6 代学部長に小林　巖（物理）就任
〃 4. 4	青森市酸ケ湯に附属八甲田山植物実験所設置
〃 7. 3	文部省告示第 81 号により第九臨時教員養成所廃止
〃 9. 9	勅令第 274 号により天文学講座設置
〃 11. 7	7 代学部長窪田忠彦（数学）就任
〃 14. 3	8 代学部長藤原松三郎（数学）再任
〃 15. 10	9 代学部長小林　巖（物理）再任
〃 17. 2	文部省告示第 54 号により仙台臨時教員養成所数学科設置
〃 20. 1	地球物理学科設置
〃 20. 4	勅令第 24 号により地球物理学が物理学教室から分離、独立教室（現在の宇宙地球物理学科）となる。
〃 20. 6	勅令第 372 号により地理学講座（現在の地圏環境科学科）設置
〃 21. 4	勅令第 205 号により帝国大学官制公布、同時に東北帝国大学官制廃止 このときにおける講座数、定員数は以下のとおりである。

昭　21.　4	講座数36、教授36、助教授29、助手49、事務官2 地理学科設置（現在の地圏環境科学科）
〃　21.　10	10代学部長高橋純一（岩石）就任
〃　22.　4	女川に附属女川地震津波地磁気観測所設置
〃　22.　9	政令第204号により東北帝国大学は東北大学に改められた。
〃　23.　3	仙台臨時教員養成所廃止
〃　24.　3	11代学部長山田光雄（物理）就任
〃　24.　4	福島県猪苗代町翁島に附属開発地理学研究所設置
〃　24.　5	法律第150号により学制改革に伴い国立学校設置法が公布され、新制大学が発足・同時に帝国大学官制廃止、あらたに国立大学として東北大学が設置され、理学部には数学科、物理学科、化学科、地学科地学第一、地学科地学第二、地学科地学第三、生物学科、天文及び地球物理学科第一並びに天文及び地球物理学科第二が置かれた。
〃　26.　4	12代学部長渡辺萬次郎（岩石）就任
〃　27.　3	附属観測所が法律第22号により附属地震観測所となる。
〃　28.　3	政令第51号により大学院理学研究科設置
〃　28.　4	省令第9号により地学科地学第三は、地学科地理学となる。
〃　28.　5	文部省告示第41号により理学研究科に数学、物理学、化学、地学、生物学及び地球物理学の6専攻を置く。
〃　29.　9	省令第23号により本学部に置かれる講座の種類及び数が定められた。即ち、数学5講座、物理学5講座、鉄鋼学3講座、化学5講座、量子化学1講座、地質学2講座、古生物学1講座、岩石鉱物学2講座、鉱床学2講座、地理学1講座、生物学6講座、天文学1講座及び地球物理学3講座が設置された。
〃　30.　3	13代学部長藤瀬新一郎（化学）就任
〃　32.　4	宮城県蔵王町遠刈田に附属遠刈田夜光観測所設置 省令第7号により附属女川地震津波地磁気観測所が官制化され理学部附属地磁気観測所となる。 理学研究科原子核理学専攻設置
〃　33.　4	理学研究科に天文学専攻設置 仙台市青葉区川内に附属青葉山植物園設置
〃　35.　4	省令第6号により植物園（従来の青葉山植物園）が官制化され理学部附属となる。
〃　37.　4	省令第11号により化学第二学科設置 14代学部長元村　勲（生物）就任
〃　39.　2	省令第3号により数学科改称
〃　39.　4	省令第12号により物理学第二学科設置
〃　40.　3	省令第17号により秋田県に附属能代地殻変動観測所設置
〃　40.　12	15代学部長山本義一（地球物理）就任
〃　41.　4	省令第22号により附属地震観測所は附属青葉山地震観測所に、附属能代地殻変動観測所は附属秋田地殻変動観測所に改正、八甲田山植物実験所が官制化され理学部附属となる。また、省令同号により仙台市太白区富沢に附属原子核理学研究施設、秋田県本荘市に附属本荘地震観測所新設、理学研究科に化学第二専攻設置

昭 42. 5	省令第 11 号により岩手県三陸町に附属三陸地殻変動観測所設置
	省令第 13 号により学科序列のうち天文及び地球物理学科第一、同第二が物理学第二学科の次に入ることに改正された。
〃 43. 4	理学研究科に物理学第二専攻設置
〃 44. 4	16 代学部長加藤陸奥雄（生物）就任
〃 44. 6	省令第 18 号により岩手県遠野市に附属北上地震観測所設置
〃 46. 3	省令第 13 号により仙台市青葉区荒巻字青葉（以下「青葉山地区」と略称）に附属泡箱写真解析施設設置
〃 46. 6	16 代加藤学部長が学長に就任、17 代学部長鈴木次郎（地球物理）就任
〃 48. 4	省令第 10 号により附属超高層物理学研究施設が設置され、夜光観測所が附属超高層蔵王観測所となる。
〃 49. 4	省令第 13 号により仙台市青葉山地区に附属地震予知観測センター設置
〃 49. 6	18 代学部長森田　章（物理）就任
〃 51. 6	19 代学部長武田　暁（物理）就任
〃 53. 4	省令第 10 号により仙台市青葉山地区に附属化学機器分析センター設置
〃 54. 3	省令第 8 号により仙台市青葉山地区に附属超低温実験施設設置
	開発地理学研究所を福島県猪苗代町翁島より同県猪苗代町芹沢に移転し、新設
〃 54. 6	20 代学部長伊東　椒（化学二）就任
〃 55. 3	省令第 5 号により青葉山地区に附属光エネルギー化学実験施設設置
〃 57. 3	附属超高層物理学研究施設が青葉山地区に設置された。
〃 57. 6	21 代学部長武田　暁（物理）再任
〃 60. 6	22 代学部長小西和彦（生物）就任
〃 61. 3	省令第 12 号により附属超低温実験施設が廃止され、附属極微少エネルギー物理学実験施設が設置
〃 61. 10	植物園記念館が附属植物園内に建設された。
〃 62. 3	省令第 10 号により附属光エネルギー化学実験施設が廃止
〃 62. 5	省令第 17 号により附属青葉山地震観測所が廃止され、附属地震予知観測センターが附属地震予知・噴火予知観測センターに改められ、附属有機ケイ素材料化学実験施設が青葉山地区に設置された。
〃 63. 6	23 代学部長黒田　正（数学）就任
平 元. 5	省令第 24 号により附属秋田地殻変動観測所及び附属本荘地震観測所が附属日本海地域地震観測所に改められた。
〃 2. 4	24 代学部長櫻井英樹（化学）就任
〃 2. 6	省令第 15 号により附属大気海洋変動観測研究センター設置
〃 2. 10	数理科学記念館が青葉山地区に建設された。
〃 3. 4	省令第 19 号により附属三陸地殻変動観測所及び附属北上地震観測所が附属三陸地域地震観測所に改められた。
〃 4. 4	省令第 9 号により天文及び地球物理学科第一、天文及び地球物理学科第二を宇宙地球物理学科に、地学科地学第一、地学科地理学を地圏環境科学科に、地学科地学第二を地球物質科学科に改称
〃 5. 4	25代学部長田中正之（附属大気海洋）就任
平 6. 4	省令第8号により物理学第二学科が物理学科に統合・改組

平　6.　4	省令第9号により理学研究科物理学専攻、天文学専攻、地球物理学専攻及び地学専攻が整備（重点化）
〃　7.　4	省令第 10号により化学第二学科が化学科に統合・改組
	省令第10号により理学研究科数学専攻、化学専攻及び生物学専攻が整備（全専攻が重点化）
〃　7.　10	自然史標本館設置
〃　8.　3	附属極微少エネルギー物理学実験施設が時限到来により廃止（東北大学低温センターと統合改組し、東北大学極低温科学センター設置）
〃　8.　4	26 代学部長・研究科長荻野　博　（化学）就任
〃　8.　5	省令第 18 号により附属有機ケイ素材料化学実験施設廃止（反応化学研究所附属有機資源・材料化学研究センターに統合・改組）
〃　8.　5	附属植物園本館が建設された。
〃　9.　4	省令第 13 号により、附属地震予知・噴火予知観測センター、附属日本海地域地震火山観測所及び附属三陸地域地震火山観測所が附属地震・噴火予知研究観測センターへ統合・改組
〃　10.　4	省令第 21 号により、附属泡箱写真解析施設が研究科附属ニュートリノ科学研究センターに改組・転換
	省令第 21 号により、附属核理学研究施設、附属超高層物理学研究施設、附属地磁気観測所、附属地震・噴火予知研究観測センター、附属大気海洋変動観測研究センター及び附属化学機器分析センターが研究科附属施設に転換
〃　11.　4	省令第 12 号により、附属超高層物理学研究施設、附属地磁気観測所が附属惑星プラズマ・大気研究センターへ統合・改組
	省令第 12 号により、附属臨海実験所、附属植物園、附属八甲田山植物実験所が研究科附属施設に転換
	27 代学部長・研究科長佐藤　繁　（物理）就任
〃　12.　4	省令第 11 号により大気海洋変動観測研究センター時限により廃止・新設
〃　13.　4	政令第 151 号により理学研究科生物学専攻が生命科学研究科に転換
〃　14.　4	28 代学部長・研究科長 鈴木厚人（附属ニュートリノ科学研究センター）就任
〃　14.　12	国際交流推進室設置
〃　16.　4	国立大学法人法（平成15年法第 112 号） により、東北大学は国立大学法人東北大学となった。
〃　16.　4	附属化学機器分析センターを附属巨大分子解析研究センターに改組・整備
〃　16.　4	附属臨海実験所を附属浅虫海洋生物学研究センターに名称変更
〃　16.　4	附属八甲田山植物実験所は附属植物園と統合し八甲田山分園とした
〃　17.　4	29 代学部長・研究科長 橋本治（物理）就任
〃　17.　4	附属浅虫海洋生物学研究センターが廃止され、生命科学研究科附属に移行した。
	附属植物園が廃止され、学内共同教育研究施設へ移行した。
〃　20.　4	地球物質科学科を地球惑星物質科学科に名称変更
	30 代学部長・研究科長 花輪公雄（地球物理）就任
〃　21.　12	附属原子核理学研究施設及び附属ニュートリノ科学研究センターが廃止され、学内共同教育研究施設へ移行した。
	附属開発地理学研究所が廃止された。
〃　23.　4	31 代学部長・研究科長 福村裕史（化学）就任
〃　26.　4	32 代学部長・研究科長 早坂忠裕（附属大気海洋変動観測研究センター）就任

歴代学部長（研究科長）

歴代	氏　名	学科等	期　間	備　考
初代	小川　正孝	化学	明 44. 4.25～大 8. 3.31	理科大学長
			大 8. 4. 1～大 8. 6.29	理学部長
2代	林　鶴一	数学	大 8. 6.30～大 12. 6.29	
3代	日下部　四郎太	物理	大 12. 6.30～大 13. 7. 3	大 13.7.3 死去、林前学部長が学部長代理となる。
4代	藤原　松三郎	数学	大 13. 7.25～大 15. 7.24	
5代	真島　利行	化学	大 15. 7.25～昭 3. 7.24	
6代	小林　巖	物理	昭 3. 7.25～昭 11. 7.24	
7代	窪田　忠彦	数学	昭 11. 7.25～昭 14. 3.30	
8代	藤原　松三郎	数学	昭 14. 3.31～昭 15.10. 4	
9代	小林　巖	物理	昭 15.10. 5～昭 21.10. 4	
10代	高橋　純一	岩石	昭 21.10. 5～昭 24. 3.30	
11代	山田　光雄	物理	昭 24. 3.31～昭 26. 3.31	
12代	渡辺　萬次郎	岩石	昭 26. 4. 1～昭 30. 3.30	
13代	藤瀬　新一郎	化学	昭 30. 3.31～昭 37. 3.31	
14代	元村　勲	生物	昭 37. 4. 1～昭 40.11.30	
15代	山本　義一	地球物理	昭 40.12. 1～昭 44. 3.31	
16代	加藤　陸奥雄	生物	昭 44. 4. 1～昭 46. 4.30	
17代	鈴木　次郎	地球物理	昭 46. 6.10～昭 49. 6. 9	前学部長、学長就任のため昭 46.5.1～46.6.9 学部長事務取扱となる。
18代	森田　章	物理	昭 49. 6.10～昭 51. 6. 9	
19代	武田　暁	物理	昭 51. 6.10～昭 54. 6. 9	
20代	伊東　椒	化学二	昭 54. 6.10～昭 57. 6. 9	
21代	武田　暁	物理	昭 57. 6.10～昭 60. 6. 9	
22代	小西　和彦	生物	昭 60. 6.10～昭 63. 6. 9	
23代	黒田　正	数学	昭 63. 6.10～平 2. 3.31	
24代	櫻井　英樹	化学	平 2. 4. 1～平 5. 3.31	
25代	田中　正之	大気海洋	平 5. 4. 1～平 8. 3.31	
26代	荻野　博	化学	平 8. 4. 1～平 11. 3.31	学部長・研究科長
27代	佐藤　繁	物理	平 11. 4. 1～平 14. 3.31	学部長・研究科長
28代	鈴木　厚人	ニュートリノ	平 14. 4. 1～平 17. 3.31	学部長・研究科長
29代	橋本　治	物理	平 17. 4. 1～平 20. 3.31	学部長・研究科長
30代	花輪　公雄	地球物理	平 20. 4. 1～平 23. 3.31	学部長・研究科長
31代	福村　裕史	化学	平 23. 4. 1～平 26. 3.31	学部長・研究科長
32代	早坂　忠裕	大気海洋	平 26. 4. 1～	学部長・研究科長

歴代事務長（事務部長）

氏　　　名	期　　　間	備　　　考
山　本　順　恵	昭24. 5.31～昭25. 6.28	
柴　田　大　三	昭25. 8.15～昭27. 6.30	
曽　我　鉀　司	昭27. 7. 1～昭37. 6.30	
萱　場　利　春	昭37. 7.16～昭43. 3.31	
山　田　利　雄	昭43. 4. 1～昭47. 3.31	
武　田　松　一	昭47. 4. 1～昭52. 3.31	
阿　部　栄　一	昭52. 4. 1～昭54. 3.31	
汲　川　六　郎	昭54. 4. 1～昭55. 3.31	
洞　口　英　夫	昭55. 4. 1～昭59. 3.31	
桃　井　辰一郎	昭59. 4. 1～昭63. 3.31	
大　場　隆　志	昭63 4. 1～平 2. 3.31	
酒　井　良　樹	平 2. 4. 1～平 3. 3.31	
猪　狩　　　勉	平 3. 4. 1～平 6. 3.31	
阿　部　経　三	平 6. 4. 1～平 8. 3.31	
金　田　一　夫	平 8. 4. 1～平11. 3.31	
大　森　光　徳	平11. 4. 1～平14. 3.31	
長谷川　征　喜	平14. 4. 1～平15. 3.31	
荒　井　勝　則	平15. 4. 1～平17. 6.30	
渋　谷　幸　雄	平17. 7. 1～平19. 3.31	
工　藤　昌　秋	平19. 4. 1～平21. 3.31	
影　山　洋　正	平21. 4. 1～平22. 3.31	
影　山　洋　正	平22. 4. 1～平24. 3.31	事務部長
石　田　秀　明	平24. 4. 1～	

機　　構

1 大　学　院

（博士課程）

理学研究科

（研究科長）
早　坂　忠　裕

（副研究科長）
長　濱　裕　幸
日　笠　健　一
美齊津　文　典

（研究科長補佐）
山　田　　　亨
小　川　卓　克

- **教授会**
- **研究科委員会**

- 数学専攻
- 物理学専攻
- 天文学専攻
- 地球物理学専攻
- 化学専攻
- 地学専攻

（附属施設）

- 巨大分子解析研究センター
- 大気海洋変動観測研究センター
- 地震・噴火予知研究観測センター
- 惑星プラズマ・大気研究センター
- 理学基礎基盤センター

2 学　　部

- **理　学　部**（学部長）早　坂　忠　裕
  - **教授会**
  - 数学科
  - 物理学科
  - 宇宙地球物理学科
  - 化学科
  - 地圏環境科学科
  - 地球惑星物質科学科
  - 生物学科
  - （附属施設）
    - 自然史標本館（学部内施設）

3 事　務　部

- **事　務　部**
  - 総務課
    - 総務係
    - 人事係
    - 研究支援係（平 26.7.1 新設）
    - 学部教務係
    - 大学院教務係
    - 学生支援係
    - 電子光理学研究センター事務係
    - 数学専攻事務室
    - 物理系専攻事務室
    - 化学専攻事務室
    - 地学専攻事務室
    - 生物学科事務室
    - 専門職員（物理系担当）
    - 専門職員（化学担当）
    - 専門職員（総合学術博物館）
  - 経理課
    - 専門職員
    - 財務運用係
    - 経理係
    - 用度係
    - 施設管理係

（事務部長）
石　田　秀　明

（総務課長）
信　坂　　　健

（経理課長）
木　戸　龍　輔

4　専攻及び講座（理学研究科）

専攻・講座名（講座数：28）	専攻設置年	専　攻　長	備　考
数学専攻（5講座）	昭　28	会　田　茂　樹	
代数学講座			
幾何学講座			
解析学講座			
多様体論講座			
応用数理講座			
物理学専攻（7講座）	昭　28	平　山　祥　郎	
量子基礎物理学講座			
素粒子・核物理学講座			
電子物理学講座			
量子物性物理学講座			
固体統計物理学講座			
相関物理学講座			
領域横断物理学講座			
天文学専攻（2講座）	昭　33	二間瀬　敏　史	
天文学講座			
理論天体物理学講座			
地球物理学専攻（4講座）	昭　28	西　村　太　志	
固体地球物理学講座			
太陽惑星空間物理学講座			
流体地球物理学講座			
地球環境物理学講座			
化学専攻（5講座）	昭　28	林　　雄二郎	
無機・分析化学講座			
有機化学講座			
物理化学講座			
境界領域化学講座			
先端理化学講座			

専攻・講座名	専攻設置年	専攻長	備考
地学専攻（5 講座） 地圏進化学講座 環境地理学講座 地球惑星物質科学講座 環境動態論講座 比較固体惑星学講座	昭 28	中村 美千彦	

5 学科及び学科目

学科名	学科目名	学科設置年	学科長及び学科委員
数学科	数学	明 44	学科長：会田茂樹 学科委員：会田茂樹・都築暢夫
物理学科	物理学	明 44	学科長：平山祥郎 学科委員：平山祥郎・落合明 山本均
宇宙地球物理学科	宇宙地球物理学	大 9	学科長：二間瀬敏史 学科委員：二間瀬敏史・西村太志
化学科	化学	明 44	学科長：林雄二郎 学科委員：林雄二郎・西澤精一
地圏環境科学科	地圏環境科学	明 44	学科長：井龍康文 学科委員：井龍康文・今泉俊文
地球惑星物質科学科	地球惑星物質科学	明 44	学科長：中村美千彦 学科委員：中村美千彦
生物学科	生物学	大 11	学科長：西谷和彦 学科委員：西谷和彦

6　附属施設

(1)　研究科附属

施設・部門名	設置年	施設の長	備考
巨大分子解析研究センター	昭 53	寺田眞浩	
大気海洋変動観測研究センター (4 研究部) 物質循環観測研究部 大気放射観測研究部 海洋環境観測研究部 大気海洋交換研究部	平 2	青木周司	
地震・噴火予知研究観測センター (3 研究部) 地震予知観測研究部 火山噴火予知観測研究部 海域総合観測研究部	昭 62	松澤　暢	
惑星プラズマ・大気研究センター (2 研究部) 惑星電波観測研究部 惑星分光観測研究部	平 11	小原隆博	

(2)　学部附属

施設名	設置年	施設の長	備考
自然史標本館	平 7	井龍　康文	

職　員　数

(平 25. 4. 1現在)

区分	教授	准教授	講師	助教	助手	事務職員	技術系職員	計
客員	(1)	(1)						(2)
連携	(7)	(3)						(10)
委嘱	(9)	(5)						(14)
計	**76**	**78**	**4**	**91**	**4**	**58**	**37**	**348**

※(　)書きは外数で、客員2名及び連携委嘱24名（教授16名、准教授8名）を示す。
　休職者、再雇用職員及び外部資金等により雇用する任期付常勤教員を含む。

学　　　生

1　学生定員及び現員

(1)　大学院学生

（平26. 5. 1現在）

区分／専攻	前期2年の課程						後期3年の課程							
	1年		2年		計		1年		2年		3年		計	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
数学専攻	38	33	38	40	76	73	18	14	18	9	18	18	54	41
物理学専攻	91	97	91	105	182	202	46	21	46	32	46	38	138	91
天文学専攻	9	11	9	8	18	19	4	7	4	5	4	5	12	17
地球物理学専攻	26	24	26	24	52	48	13	7	13	8	13	6	39	21
化学専攻	66	88	66	80	132	168	33	33	33	22	33	38	99	93
地学専攻	32	37	32	39	64	76	16	13	16	7	16	14	48	34
計	262	290	262	296	524	586	130	95	130	83	130	119	390	297

⑵ 学部学生

（平 26. 5. 1現在）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="2">1　年</th><th colspan="2">2　年</th><th colspan="3">3　年</th><th colspan="3">4　年</th><th colspan="2">計</th></tr>
<tr><th>定　員</th><th>現　員</th><th>定　員</th><th>現　員</th><th>定　員</th><th colspan="2">現　員</th><th>定　員</th><th colspan="2">現　員</th><th>定　員</th><th>現　員</th></tr>
<tr><td colspan="2">数　学　科</td><td>45</td><td>46</td><td>45</td><td>49</td><td>45</td><td colspan="2">47</td><td>45</td><td colspan="2">53</td><td>180</td><td>195</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物理系</td><td>物理学科</td><td>78</td><td rowspan="2">126</td><td>78</td><td rowspan="2">127</td><td>78</td><td rowspan="2">2</td><td>83</td><td>78</td><td colspan="2">91</td><td>312</td><td rowspan="2">515</td></tr>
<tr><td>宇宙地球物理学科</td><td>41</td><td>41</td><td>41</td><td>42</td><td>41</td><td colspan="2">44</td><td>164</td></tr>
<tr><td colspan="2">化　学　科</td><td>70</td><td>79</td><td>70</td><td>78</td><td>70</td><td colspan="2">73</td><td>70</td><td colspan="2">73</td><td>280</td><td>303</td></tr>
<tr><td rowspan="2">地球科学系</td><td>地圏環境科学科</td><td>30</td><td rowspan="2">54</td><td>30</td><td rowspan="2">53</td><td>30</td><td colspan="2">28</td><td>30</td><td rowspan="2">1</td><td>29</td><td>120</td><td rowspan="2">220</td></tr>
<tr><td>地球惑星物質科学科</td><td>20</td><td>20</td><td>20</td><td colspan="2">26</td><td>20</td><td>29</td><td>80</td></tr>
<tr><td colspan="2">生　物　学　科</td><td>40</td><td>46</td><td>40</td><td>43</td><td>40</td><td colspan="2">44</td><td>40</td><td colspan="2">46</td><td>160</td><td>179</td></tr>
<tr><td colspan="2">計</td><td>324</td><td>351</td><td>324</td><td>350</td><td>324</td><td colspan="2">345</td><td>324</td><td colspan="2">366</td><td>1,296</td><td>1,412</td></tr>
</table>

⑶　研究生及び科目等履修生

（平 26. 5. 1現在）

	研　究　生	科目等履修生	特別聴講学生	特別研究学生
学　　部	2	8	14	
大　学　院	4	1	0	14

2　平成26年度入学者選抜状況

⑴　大学院学生

（平 26. 4. 1現在）

区分 / 専攻	前期2年の課程				後期3年の課程			
	募集人員	志願者数	志願倍率	入学者数	募集人員	進学者数	編入学者数	合計
数学専攻	38	43(1)	1.13	32(1)	18	10(0)	1(0)	11(0)
物理学専攻	91	104(4)	1.14	86(2)	46	16(0)	0	16(0)
天文学専攻	9	23(0)	2.56	9(0)	4	6(0)	0	6(0)
地球物理学専攻	26	33(0)	1.27	23(0)	13	3(0)	3(0)	6(0)
化学専攻	66	89(3)	1.35	80(2)	33	21(1)	4(0)	25(1)
地学専攻	32	46(1)	1.44	35(1)	16	10(1)	2(0)	12(1)
計	262	338(9)	1.29	265(6)	130	66(2)	10(0)	76(2)

（　）内は、外国人留学生で、内数である。

⑵　学部学生

（平 26. 4. 1現在）

区　分	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数
前期日程	222	○2　561	2.5	○2　550	○1　246	○1　245
後期日程	58	894	15.4	462	70	59
AO入試Ⅱ期	44	◎2　124	2.8	◎2　124	◎2　35	◎2　35
計	324	○2◎2　1,579	4.9	○2◎2　1,136	○1◎2　351	○1◎2☆4　339

◎は、科学オリンピック入試で、外数である。（定員内）
○は、私費外国人留学生で、外数である。（定員内）
☆は、国費・政府派遣留学生等で、外数である。（定員外）

3　修了者及び卒業者

⑴　大学院修了者

専攻＼課程	前期２年の課程			後期３年の課程 ※		
	昭30．3～平25.3	平25．4～平26.3	計	昭30．3～平25.3	平25．4～平26.3	計
数学専攻	878	36	914	118	8	126
物理学専攻	2,144	66	2,210	529	20	549
物理学第二専攻	371	0	371	111	0	111
原子核理学専攻	397	0	397	209	0	209
天文学専攻	276	9	285	117	3	120
地球物理学専攻	886	27	913	228	10	238
化学専攻	1,968	81	2,049	731	23	754
化学第二専攻	505	0	505	190	0	190
地学専攻	973	37	1,010	304	3	307
生物学専攻	613	0	613	243	0	243
計	9,011	256	9,267	2,780	67	2,847

※東北大学大学院通則第３４条第３項による修了者を含む。

⑵　学部卒業者

<table>
<tr><td rowspan="3">学科＼設置区分</td><td colspan="2">東北帝国大学</td><td colspan="4">東北大学</td></tr>
<tr><td>理科大学</td><td>理学部</td><td>理学部(旧制)</td><td colspan="2">理学部（新制）</td><td rowspan="2">合計</td></tr>
<tr><td>大3．7～大7．12</td><td>大8．6～昭22．9</td><td>昭23．3～昭29．3</td><td>昭28．3～平9．3</td><td>平9．4～平26.3</td></tr>
<tr><td>数学科</td><td>23</td><td>404</td><td>117</td><td>1,564</td><td>762</td><td>2,443</td></tr>
<tr><td>物理学科</td><td>35</td><td>418</td><td>141</td><td>1,600</td><td>1,299</td><td>3,040</td></tr>
<tr><td>物理学第二学科</td><td></td><td></td><td></td><td>1,083</td><td>2</td><td>1,085</td></tr>
<tr><td>宇宙地球物理学科
（天文分野）
天文地球物理学科第一</td><td></td><td></td><td></td><td>316</td><td rowspan="2">757</td><td rowspan="2">1,747</td></tr>
<tr><td>宇宙地球物理学科
（地球物理分野）
（天文地球物理学科第二）</td><td></td><td>11</td><td>49</td><td>625</td></tr>
</table>

次のページに続く→

16ページの続き→

設置区分 / 学科	東北帝国大学		東北大学			
	理科大学	理学部	理学部(旧制)	理学部（新制）		合計
	大3.7〜大7.12	大8.6〜昭22.9	昭23.3〜昭29.3	昭28.3〜平9.3	平9.4〜平26.3	
化学科	42	500	169	1,481	1,185	3,839
化学第二学科				1,004		
地圏環境科学科（地質分野）（地質学古生物学科 地学科地学第一）		165	57	477	487	1,428
（地質学科）	20	14				
地圏環境科学科（地理学分野）（地理学科 地学科地理学）			34	373		
地球惑星物質科学科 / 地球物質科学科（岩石鉱物鉱床学科 地学科地学第二）		196	85	623	319	1,027
生物学科		193	74	1,160	735	1,969
計	120	1,901	726	10,306	5,546	16,578
合計	18,599					

4　論文提出による博士の学位授与者

⑴　学位令（大正9年7月6日勅令第200号）に基づくもの　944人

⑵　学位規則（昭和28年文部省令第9号）に基づくもの

年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
人数	16	22	20	21	21	14	17	7
累計	1,074	1,096	1,116	1,137	1,158	1,172	1,189	1,196
年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
人数	11	6	8	9	7	3	2	3
累計	1,207	1,213	1,221	1,230	1,237	1,240	1,242	1,245

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
人数	4	3	6
累計	1,249	1,252	1,258

5　平成25年度修了者及び卒業者進路状況

(1)　大学院修了者

区分／課程	修了者	進学者	就職者	日本学術振興会特別研究員等	研究員研究生等	その他
前期２年の課程	256	78	164		2	12
後期３年の課程	67	0	30	12	17	8
計	323	78	194	12	19	20

(2)　学部卒業者

区分／学科	卒業者	進学者	就職者	研究生等	その他
数学科	51	27	19	0	5
物理学科	82	72	3	1	6
宇宙地球物理学科	42	32	8	1	1
化学科	71	69	1	0	1
地圏環境科学科	25	18	4	1	2
地球惑星物質科学科	22	19	2	0	1
生物学科	39	32	5	0	2
計	332	269	42	3	18

6　連携大学院方式

連携大学院方式は、国立及び民間の試験研究機関と研究交流・連携を図り、大学院理学研究科に連携・委嘱分野を設置し、その研究機関の研究者を委嘱又は、客員教授として招へいし、研究領域の多様化、豊富化を通じて教育研究の高度化を図る制度である。

専攻名	連携・委嘱分野	連携研究機関名
物理学専攻	加速器科学	独立行政法人日本原子力研究開発機構
		大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構
	強相関電子物理学	財団法人高輝度光科学研究センター
		独立行政法人物質・材料研究機構
		大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構
	量子計測	ＮＴＴ物性科学基礎研究所
		独立行政法人理化学研究所
地球物理学専攻	固体地球物理学	独立行政法人防災科学技術研究所
		独立行政法人海洋研究開発機構
化学専攻	分離化学	独立行政法人産業技術総合研究所
	重元素化学	独立行政法人日本原子力研究開発機構
地学専攻	地圏物質循環学	独立行政法人産業技術総合研究所
		独立行政法人国立環境研究所
	地球内部反応	独立行政法人産業技術総合研究所
		独立行政法人物質・材料研究機構
		独立行政法人海洋研究開発機構

7　外国人留学生数

（平 26. 5. 1現在）

国籍	学部学生	大学院学生		学部研究生	大学院研究生	特別研究学生	特別聴講学生	科目等履修生	計
		博士課程前期２年の課程	博士課程前期３年の課程						
インド	1	1	1						3
インドネシア	9	10	4				1		24
韓国	8	1	3				1		13
シンガポール							1		1
スリランカ		1							1
タイ	4	1	1		1				7
台湾	1		1			1	1		4
中国	5	14	31		1	4	2		57
ネパール		2	1						3
パキスタン			1						1
バングラディッシュ	1	2	2						5
フィリピン			1						1
ベトナム		4	3						7
マレーシア			1						1
モンゴル		1							1
イラン		1	4						5
オマーン		1							1
トルコ		1	1						2
エジプト			1			1			2
エチオピア		1	1						2
アメリカ合衆国		3	1						4
カナダ		1							1
コスタリカ	1								1
ブラジル		1	1				3		5
ベネズエラ		1							1
メキシコ			1						1
スウェーデン							1		1
スペイン							1		1
スロバキア		1							1
ドイツ						2	3		5
フィンランド						1			1
フランス		1	1						2
ベルギー						1			1
ポーランド			1						1
リトアニア	1								1
計	31	49	62	0	2	10	14	0	168

科学研究費

1　平成25年度科学研究費補助金採択状況

（単位：千円）

研究種目名	件数	交付を受けた研究費	直接経費	間接経費
特別推進研究	2	228,540	175,800	52,740
新学術領域研究（領域提案型）	27	415,675	319,750	95,925
基盤研究(S)	4	132,990	102,300	30,690
基盤研究(A)一般	25	323,570	248,900	74,670
基盤研究(A)海外学術	2	15,470	11,900	3,570
基盤研究(B)一般	22	113,230	87,100	26,130
基盤研究(B)海外学術	4	17,810	13,700	4,110
基盤研究(C)	37	54,990	42,300	12,690
挑戦的萌芽研究	36	60,970	46,900	14,070
若手研究(A)	8	37,700	29,000	8,700
若手研究(B)	36	47,840	36,800	11,040
研究活動スタート支援	3	4,030	3,100	930
奨励研究	0	0	0	
小計	206	1,452,815	1,117,550	335,265
特別研究員奨励費	61	52,400	52,400	
合計	266	1,505,215	1,169,950	335,265

※内定額

学術交流

1　研究員等受入れ状況

（平成 25 年度）

種　　別	受入者数
民間等との共同研究	1
受託研究員	1
受託研修員	1
学振特別研究員（P．D．）	14
計	17

2　外国人研究員等受入れ状況

（平成 25 年度）

種　　別	受入者数
日本学術振興会	
外国人招へい研究者	3
外国人特別研究員	4
二国間交流・その他	18
日本学生支援機構　帰国外国人留学生短期研究制度　外国人研究者	1
客員研究員	2
理学研究科・理学部外国人招へい研究者	0
計	28

3　部局間学術交流協定校

国名・地域名	協定締結校名	締結年月日
デンマーク	コペンハーゲン大学	1999年　9月 20日
アメリカ	イリノイ大学シカゴ校	2000年　5月　1日
フランス	フランス高等師範学校リヨン校	2006年 12月　8日
ベルギー	ルーバンカトリック大学理学研究科	2007年　8月 29日
ニュージーランド	ニュージーランド地質・核科学研究所	2008年　3月 19日
ロシア	ロシア科学アカデミーシベリア支部ソボレフ地質学・鉱物学研究所	2008年 11月　7日
アメリカ	カーネギー研究機構地球物理学研究所	2008年 12月　1日
台湾	中央研究院地球科学研究所	2008年 12月　4日
ドイツ	ビーレフェルト大学共同研究センター	2010年　7月 23日
フランス	リヨン第一大学理工学部	2011年　9月　9日
中国	中国地質大学地球科学学院	2011年　4月 29日
ドイツ	ヴッパータール大学数学・自然科学部	2012年　1月 23日
ドイツ	マインツ大学物理学・数学・計算機科学部	2012年　5月　3日
イタリア	フェラーラ大学	2012年　6月 27日
イタリア	ピサ高等師範学校エニオ・デジョルジ数学研究センター	2013年　6月 25日
イギリス	キングスカレッジロンドン自然科学・数学部	2012年 12月　1日
オランダ	アムステルダム大学理学部	2013年　7月 11日
南アフリカ	ローズ大学理学部	2013年　9月 16日
イタリア	シエナ大学理学研究科	2013年　8月　1日
インドネシア	ブラウィジャヤ大学数学・自然科学部	2013年 11月 17日
中国	南京大学化学・化学工学科	2014年　3月 28日

予　　算

1　平成25年度予算額

区　　　分	金　　額	備　　考
運　営　費	4,503,478,072 円	
寄附金事業費	76,613,381	
受託研究費	653,285,313	
受託事業費	37,237,498	
施設整備費	0	
預り補助金	450,008,614	
計	5,720,622,878	

機械・器具

（平 26. 3. 31 現在）

資産区分	数　量	金　　額	備　　考
機械及び装置	42	144,206 千円	
工具・器具及び備品	3,210	9,425,244	
車両その他の陸上運搬具	24	58,160	
計	3,276	9,627,610	

備考：本調は、50 万円以上の品目である。

標　本　等

1　標　本

保　存　数	標本点数	タイプ標本点数
古生物関係	1,129,656	8,710
岩石・鉱物関係	276,650	
動物関係		
（生態進化生物学講座）	300,000	80

2　実験生物系統保存

種　　類	保　存　数
哺乳動物由来の培養細胞	100　種　以上
ハツカネズミ	20　系統
ヤナギ科植物	200　種

学術研究発表誌（○英文、●和文）

- ○　東北大学理科報告　第 1 集（化学）年 1 回発行　既刊巻数　81 巻（2004）
- ○　東北大学理科報告　第 2 集（地質学）年 2 回発行　既刊巻数　63 巻 2 号（1996）
- ○　東北大学理科報告　第 3 集（岩石・鉱物学・鉱床学）年 1 回発行　既刊巻数　17 巻 1 号（1988）
- ○　東北大学理科報告　第 4 集（生物学）年 1 回発行　既刊巻数　40 巻 4 号（2001）
- ○　東北大学理科報告　第 5 集（地球物理学）年 4 回発行　既刊巻数　37 巻 2 号（2006）
- ○　東北数学雑誌　年 4 回発行　既刊巻数　66 巻 2 号（2014）
- ○　東北大学理科報告　第 7 集（地理学）年 2 回発行　既刊巻数　60 巻 2 号（2014）
- ○　東北大学理科報告　第 8 集（物理学・天文学）年 3 回発行　既刊巻数　26 巻 1 号（2006）
- ○　ELPH ANNUAL REPORT 2010　年 1 回発行　既刊巻数　1 巻（2012）
- ●　東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告　不定期　既刊巻数　93 号（1992）
- ○　Tohoku Mathematical Publications　不定期　既刊号数　37 号（2012）

土地・建物

（平 26. 4. 1現在）

（単　位：㎡）

区分／施設名	土地	建物					
		木造		RC・B・S建		計	
		建	延	建	延	建	延
理学研究科・理学部	青葉山地区敷地内	0	0	15.717	62,206	15.717	62,206
地震・噴火予知研究観測センター	〃			1,011	3,115	1,011	3,115
〈県　内〉							
惑星圏女川観測所	▲43,111	172	235	52	52	224	287
惑星圏蔵王観測所	▲29,319			130	238	130	238
惑星圏川渡観測所	川渡農場敷地内			61	61	61	61
惑星圏米山観測所	▲1,600			101	101	101	101
釜房地震観測点	▲144			▲5	▲5	▲5	▲5
川渡地震観測所	川渡農場敷地内						
金華山地震観測点	12,238			2	2	2	2
若柳地震観測点	▲100			12	12	12	12
蔵王火山観測点	▲492			6	6	6	6
津山広帯地域地震観測点	▲9						
七ヶ宿火山観測点	▲340						
気仙沼総合観測線観測点	▲112						
地球物理学科第二大気境界層観測所（小牛田地区）	▲1,038			19	19	19	19
江島地震観測点	▲100			12	12	12	12
升沢地震観測点	▲4						
大須地震観測点	▲4						
名足地震観測点	▲4						
加護坊山地震観測点	▲3						
狐崎地震観測点	▲2						
米谷地震観測点	▲6						
宮沢地震観測点	▲4						
品ノ浦地震観測点	▲5						
大岳山地震観測点	▲3						
柳津地震観測点	▲1						
篦岳地震観測点	▲6						
旭山地震観測点	▲5						
大松沢地震観測点	▲3						
宮戸地震観測点	▲2						
須江地震観測点	▲2						
荒町地震観測点	▲9						
焼石亦地震観測点	▲62						

区分 施設名	土地	建物					
		木造		RC・B・S建		計	
		建	延	建	延	建	延
宇津野地震観測点	▲4						
花山地震観測点	▲6						
中埣地震観測点	▲4						
切留地殻流体地震観測点	▲5						
軍沢地殻流体地震観測点	▲14						
鬼首地殻流体地震観測地点	▲43						
鳴子地殻流体地震観測地点	▲30						
川渡地殻流体地震観測地点	▲38						
西上野目地殻流体地震観測地点	▲10						
花山湖地殻流体地震観測地点	▲5						
宮床地震観測点	▲14						
岩入地震GPS観測点	▲104						
芋沢地震観測点	▲30						
柳目地震観測点	▲22						
〈青森県〉							
深浦地震観測点	▲100			12	12	12	12
階上地震観測点	▲49 735			16	16	16	16
東通地震観測点	▲100			12	12	12	12
六ヶ所村GPS観測点	▲4						
〈岩手県〉							
大東総合観測線観測所	▲210						
黒沢尻総合観測線観測点	▲200						
岩手火山（松尾）総合観測点	▲143			24	32	24	32
岩手山火山観測点	▲465			36	46	36	46
岩手火山（西根）実験井	▲14						
三陸地震観測所	5,282			134	346	134	346
三陸地震観測点	▲100			12	12	12	12
滝沢火山観測点	▲100			6	6	6	6
玄武洞観測点	▲102			12	12	12	12
橋場観測点	▲100			12	12	12	12
遠野地震観測所	▲7,674 4,613			247	377	247	377
普代地震観測点	▲110			12	12	12	12
釜石鉱山地震観測点	▲101						
姫神地殻変動観測点	▲309						
宮古地殻変動観測点	▲854			12	12	12	12
西根火山観測点	▲80			6	6	6	6

区分 / 施設名	土地	建物					
		木造		RC・B・S建		計	
		建	延	建	延	建	延
沢内総合観測線観測点	▲35						
鉛ＧＰＳ観測点	▲5						
山目中ＧＰＳ地震観測点	▲2						
本寺小ＧＰＳ地震観測点	▲2						
一関市博物館ＧＰＳ地震観測点	▲2						
中野中学校ＧＰＳ観測点	▲4						
高倉山地震観測点	▲34						
小山沢地震観測点	▲3						
光興寺地震観測点	▲600						
〈秋田県〉							
秋田地震観測所	1,053			253	337	253	337
仁別地殻変動観測点	▲1,106			6	6	6	6
田沢湖総合観測線観測点	▲200						
西木総合観測線観測点	▲200						
五城目総合観測線観測点	▲100						
本荘地震観測所	▲892			165	270	165	270
二ツ井地震観測点	▲1,386			35	55	35	55
秋田焼山火山観測点	▲133						
大湯火山観測点	▲140						
秋田駒ヶ岳火山観測点	▲100						
岩城地震観測点	▲100			12	12	12	12
男鹿地殻変動観測点	▲1,935			6	6	6	6
男神山観測点	▲145						
狙半内地震観測点	▲9						
出戸地震観測点	▲36						
院内地震観測点	▲22						
大飯郷地震観測点	▲22						
百宅地震観測点	▲42						
軽井沢地震観測点	▲42						
葛岡地震観測点	▲22						
猿倉地震観測点	▲44						
大須郷地震観測点	▲14						
二ッ石地震観測点	▲5						
二ッ石地震観測点（御獅子ヶ沢）	▲25						
平野沢ＧＰＳ観測点	▲3						
雄物川ＧＰＳ観測点	▲4						
新南外ＧＰＳ観測点	▲4						

区分 / 施設名	土地	建物					
		木造		RC・B・S建		計	
		建	延	建	延	建	延
中仙GPS観測点	▲4						
〈山形県〉							
温海地震観測点	▲443			35	55	35	55
湯の台火山観測点	▲105						
飛鳥プレート活動総合観測点	▲78			6	6	6	6
八幡中継点	▲1						
白布火山観測点	▲20						
酒田地震観測点	▲100			12	12	12	12
村山地震観測点	▲110			12	12	12	12
東根気象観測点	▲37						
直世地震観測点	▲46						
白井地震観測点	▲12						
大沢地震観測点	▲12						
北俣地震観測点	▲22						
田沢地震観測点	▲22						
大網地震観測点	▲42						
曲川地震観測点	▲22						
加茂地震観測点	▲12						
南山地震観測点	▲12						
添川地震観測点	▲5						
吹浦地震観測点	▲6						
下野明地震観測点	▲4						
牛房野地震観測点	▲20						
湯ノ沢地震観測点	▲6						
羽前赤倉地殻流体地震観測点	▲20						
向町地殻流体地震観測点	▲5						
田麦野GPS観測点	▲2						
湯野沢GPS観測点	▲12						
〈福島県〉							
惑星圏飯舘観測所	▲24,092			102	150	102	150
旧開発地理学研究所（猪苗代地区）	990						
北阿武隈地殻変動観測点	▲25						
いわき沖地震観測点	いわき沖 プラットホーム内						
安達太良火山観測点	▲192						
磐梯火山観測点	▲788						
微温湯火山観測点	▲220						
南吾妻火山観測点	▲22						

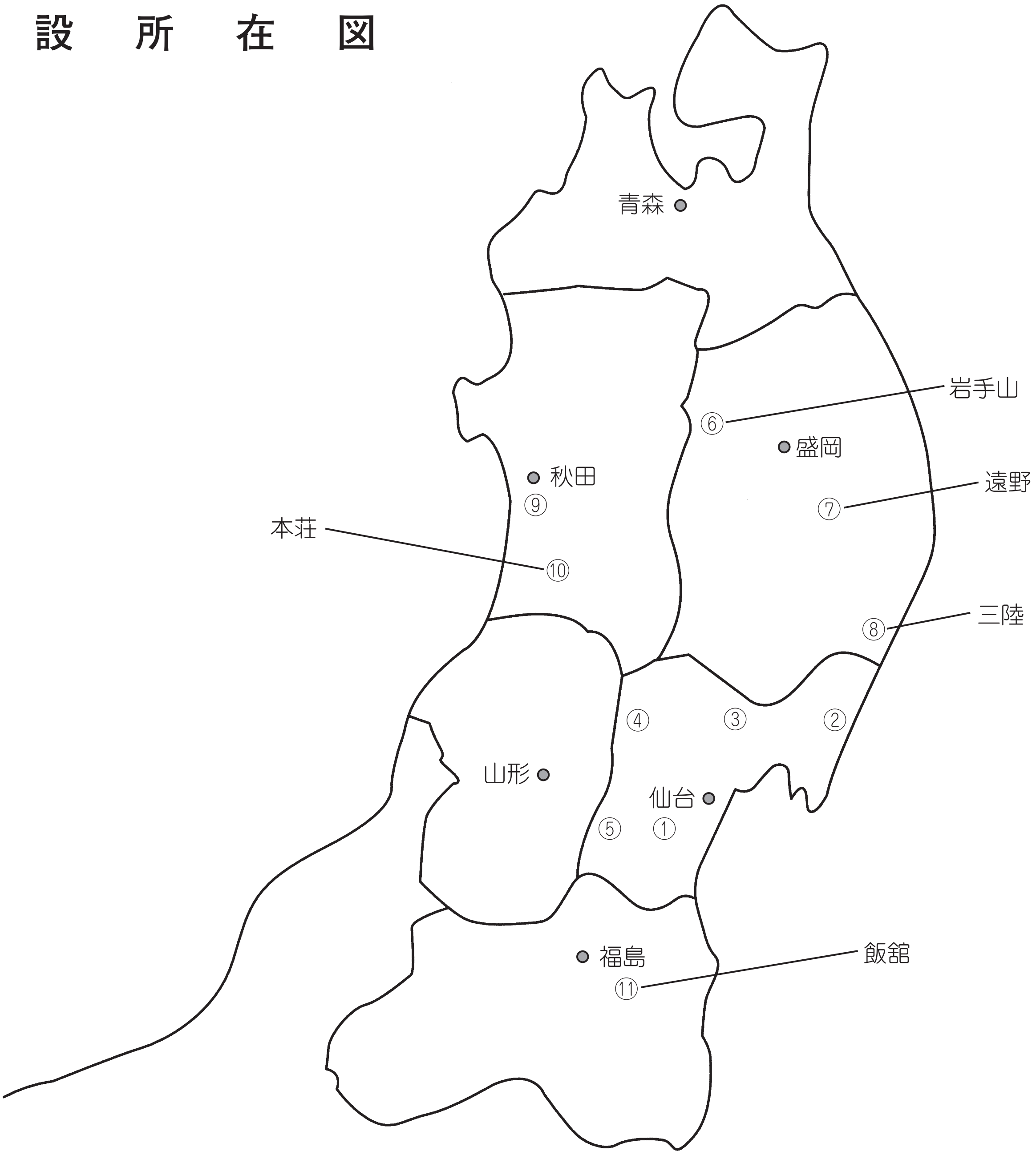
区分 / 施設名	土地	建物					
		木造		RC・B・S建		計	
		建	延	建	延	建	延
いわき地震観測点	▲251						
金山地震観測点	▲26						
南会津地震観測点	▲260						
古殿中継点	▲1						
三程地震観測点	▲1						
〈新潟県〉							
新発田地震観測点	▲169						
佐渡プレート活動総合観測点	▲113			6	6	6	6
〈栃木県〉							
八溝地震観測点	▲25						
計	▲122,417 24,911	172	235	▲5 18,326	▲5 67,664	▲5 18,498	▲5 67,899

備考：1　▲印は借入数量（含無償）を示す。

2　理学研究科・理学部及び地震・噴火予知研究観測センター（青葉山地区）は、青葉山地域敷地（工学部、薬学部等含む。）763,934㎡内に含まれる。

3　川渡地震観測点及び惑星圏川渡観測所は、農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター18,542,442 ㎡内に含まれる。

施　設　所　在　図

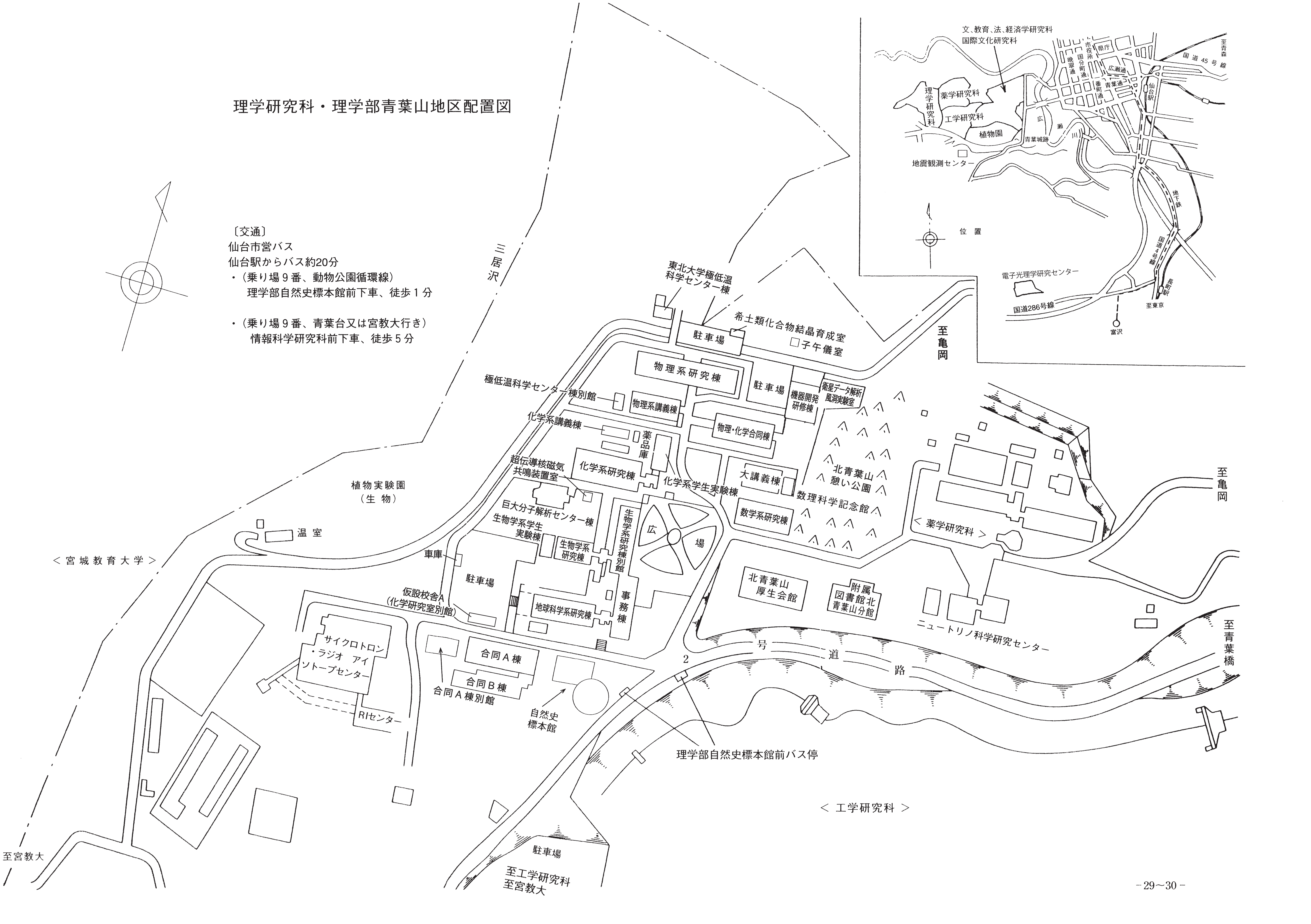


①青葉山地区
　巨大分子解析研究センター
　大気海洋変動観測研究センター
　地震・噴火予知研究観測センター
　惑星プラズマ・大気研究センター
　自然史標本館
②惑星圏女川観測所
③惑星圏米山観測所
④惑星圏川渡観測所
⑤惑星圏蔵王観測所
⑥岩手火山（松尾）総合観測点
⑦遠野地震観測所
⑧三陸地震観測所
⑨秋田地震観測所
⑩本荘地震観測所
⑪惑星圏飯舘観測所

理学研究科・理学部青葉山地区配置図

〔交通〕
仙台市営バス
仙台駅からバス約20分
・（乗り場９番、動物公園循環線）
　理学部自然史標本館前下車、徒歩１分

・（乗り場９番、青葉台又は宮教大行き）
　情報科学研究科前下車、徒歩５分



東北大学大学院理学研究科
東　北　大　学　理　学　部

〒 980 − 8578　仙台市青葉区荒巻字青葉６番３号

☎　市外局番　０２２（ダイヤルイン）

東北大学理学研究科・理学部

研究科長・学部長室	７９５ − ６３４２
事務部長室	７９５ − ６３４３
総務課長	７９５ − ６３４４
経理課長	７９５ − ６３５４
専門職員（経理課担当）	７９５ − ４５８１
専門職員（物理系担当）	７９５ − ４５８０
専門職員（化学担当）	７９５ − ６６０１
専門職員（総合学術博物館担当）	７９５ − ６７６８
総 務 係	７９５ − ６３４６
人 事 係	７９５ − ６３４８
研究支援係	７９５ − ３７９８
学部教務係	７９５ − ６３５０
大学院教務係	７９５ − ６３５１
学生支援係	７９５ − ６４０３
財務運用係	７９５ − ６３５２
経 理 係	７９５ − ６３５３
用 度 係	７９５ − ６３５５
施設管理係	７９５ − ６３５８

ＦＡＸ	総務課（総･人･研）	７９５ − ６３６３
	総務課（教　務）	７９５ − ６３４５
	経理課	７９５ − ６３６４